

雪に備える

早めの準備で営農と暮らしに安心を

日本農業新聞

本格的な冬が近づいてきました。ひとたび大雪に見舞われると、農業経営はもちろんだ、日々の暮らしにも大きな影響があります。ここでは除雪作業の注意点や今後の気象見通しを解説しつつ、雪対策に役立つ資機材を特集します。

歩行型除雪機による事故を防ごう！

（社）日本農業機械工業会 毎年、冬のシーズンになると歩行型ロータリ除雪機（以下、除雪機）による事故が発生しています。

このため、（社）日本農業機械工業会では、除雪機を生産・販売する企業で「除雪機安全協議

会」を立ち上げ、安全対策に取り組んできました。特に、2004年4月以降のメーカー出荷分からは、全機種にデッドマンクラッチを装備しています。

これは、オペレータがエンジンを切らずにオーガ・プロフを回転状態にしたまま、雪詰まりを除去したり回転部の点検等をしたとき、手足が巻き込まれたりするのを防ぐものです。

◆事故の事例

事例1：除雪機のオーガに雪が詰まったため、エンジンがかけたまま手で雪を取り除いたところ、止まっていたオーガが突然回転し、身体の一部が巻き込まれた。

事例2：除雪機のオーガの前でスコップを使って雪堆の雪を投げ入れていたが、足を滑らせて転倒し、除雪機のオーガに巻き込まれた。

事例3：除雪機の前方近くで作業をしていた子どもが足を滑らせて転倒し、除雪機のオーガに巻き込まれた。

除雪機には、機体前面で雪をかき込むオーガ、雪を放出するシユータなど機械固有の回転機構があります。各種安全装置を装備することで安全性を確保していますが、これを解除して使用したり、使用目的以外の使い方をすると危険です。

◆作業の注意5カ条
①作業前に必ず取扱説明

書をよく読み、正しい使い方を理解する。
②雪詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、回転部（オーガ、プロフ）が完全に停止してから雪かき棒を使って行う。

③回転部に近づくときは、必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから作業する。
④発進時は、転倒したり挟まれたりしないよう足元や後方の障害物には十分注意する。

⑤除雪作業中は、雪を飛ばす方向に人や車、建物がないことを確認。また除雪機の周りには絶対に人を近づけないようにする。

今後の気象見通し 「極端な冬」



気象予報士 榎山靖洋
NHKニュース「おはよう日本」気象キャスター

地球温暖化が進むと極端な現象が多くなると言われます。ここ最近の冬は、記録的暖冬か、記録的大雪か、振り幅が大きくなっています。

昨冬（昨年12月から今年2月）は、気温は平年並みでしたが、日本海側の雪は少なくなりました。一昨年の冬（06年12月・07年2月）は記録的な暖冬で、仙台、東京、大阪などで平均気温の最も高い記録を更新

しました。日本海側の雪は平年よりかなり少なく、北陸では平年の9割でした。ところが、3年前の冬（05年12月・06年2月）は、強い気圧配置が断続し、記録的な大雪となりました。「平成18年豪雪」です。屋根おろし中の事故、落雪や壊れた家屋の下敷き、交通障害など多くの災害が発生しました。12月には東・西日本の平均気温が戦後最も低くなり、かなり寒い冬でした。

最新の3ヶ月予報では、11月は全国的に気温が平年並みか平年より高い確率が大きくなっています。今冬は特に早い冬の訪れはなさそうです。

小型で安価なミニローダで楽々農作業

三陽機器

農作業の整地・運搬を安全に快適に省力化できるとして三陽機器(株)のミニローダが注目を集めています。

トラクターとのバランスがよく、作業視界が広く、軽量コンパクトで、小回りがきき、操作はレバー1本で行えますので、女性や初めて使う方でも簡単。ハウス内でも問題なく作業が可能です。整地・運搬作業に加え、除雪シーズンにも活躍、1年中使える点が人気の理由です。

用途や場所に合わせてアタッチメントが選択ができ、ほとんどのトラクターに装着が可能です。

また、各地区には営業所があり、アフターサービスも万全です。

問い合わせは
0865 (64) 2871
http://www.sanvokiki.co.jp/